

NGO・NPOの環境保全活動を支援します。

環境再生保全機構

地球環境基金便り

No. **34**
March 2013

地球環境基金便り
第34号
2013年3月1日発行

発行／独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金部
〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1-3-10番
基金管理課 URL: <http://www.erca.go.jp/jfge/> E-mail: c-kikin@erca.go.jp
〒212-8554 神奈川県川崎市幸区大宮町1-3-10番
ミナミサカキビル4F TEL: 044(5)6606 FAX: 044(5)2190 編集協力／廣告社株式会社

復興に向けて
被災地を見守る希望の灯り



特集 東日本大震災から2年 復興への取組み



ご寄付のお願い 地球環境基金への寄付を通して、環境NGO・NPO活動をご支援ください。

地球環境基金は「本de寄付」「スマイル・エコ・プログラム」などのリサイクルを通じたご寄付のほかに、環境イベントやみなさまの職場・サークル活動での募金箱の設置等によるご協力をいただいています。

1 スマイル・エコ・プログラム

宅配買取サービスのご利用方法

エコとリサイクルをお手伝い

送料無料で宅配買取にエコ募金を組み合わせた「スマイル・エコ・プログラム」。

買取1件につき、ネットオフ株式会社の負担により一定の金額が地球環境基金に寄付される仕組みです。また、買取代金から任意の金額を地球環境基金にご寄付いただけます。

お申し込み（ネットオフ株式会社）
<http://www.ebookoff.co.jp/smile/>
電話0120-39-0202

イベントを通じてのご寄付

企業・団体など組織で環境に関するイベントを開催される際には、地球環境基金の活動紹介パネル・ポスター等の貸出しや各種広報グッズ等の提供も行っています。また、募金箱の貸出しも行っています。



2 本de寄付



ご家庭や職場等でご不要になった本やCD等をブックオフオンラインに買い取っていただき、その買取金額が地球環境基金に寄付されます。

3 銀行からの振込



15ページの「ご寄付口座のご案内」をご参照の上、お振込みください。

4 全国のFamiポートから



全国のファミリーマートに設置されているマルチメディア端末「Famiポート」から地球環境基金にご寄付いただけます。

5 オンラインで決済



VISA、Masterのクレジットカードをお持ちの方は、地球環境基金のホームページからご寄付いただけます。

6 クレジットカードのポイントを利用して

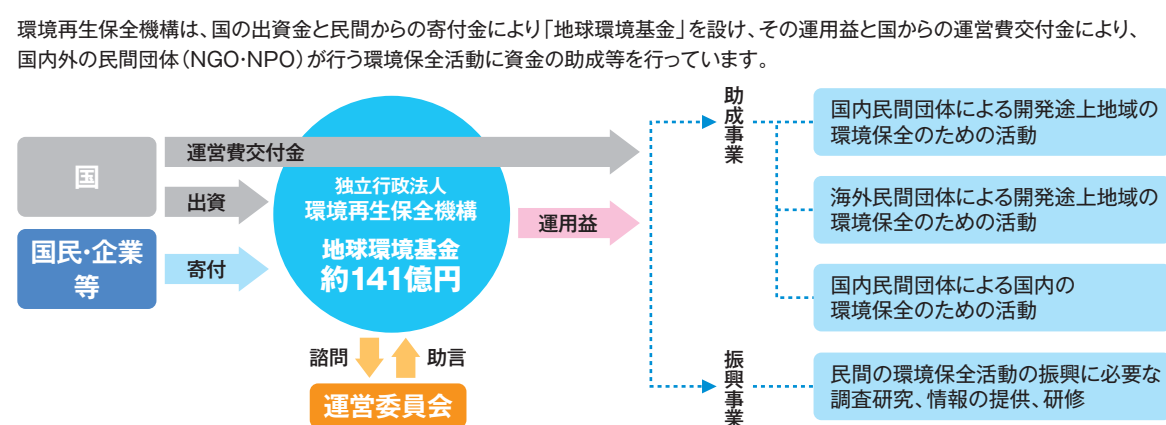


セゾンカード／UCカードの「永久不滅ポイント」を通じてご寄付いただけます。

詳しくは、ホームページをご参照ください。 <http://www.erca.go.jp/jfge/>



地球環境基金とは



イベント情報

環境再生保全機構は、昨年12月13～15日に開催されたエコプロダクツ2012に出席し、恒例の「エコアイデアコンテスト」を実施。小学生から大人まで多くの方にエコアイデアを書いていただきました。



地球環境基金創設20周年!

地球環境基金が創設されて2013年5月で20周年を迎えます。これまでの基金事業を総括し成果や実績を取りまとめた「20周年誌」や地球環境基金事業を紹介する「DVD」を、制作しています。また、11月にシンポジウム等も計画しています。詳しくは次号でご紹介いたします。



編集後記

34号では「東日本大震災後の復興への取組み」を特集しました。被災地で復興に立ち向かう現場の声を取材し、支援を通してあたたかい絆が確実に広がっていることを実感しました。日本人の思いやりの心や物事を続けることの大切さをお伝えできればと思います。



独立行政法人 環境再生保全機構

忘れてしまったら、心はつながりません。

特集

東日本大震災から2年
復興への取り組み

「NEVER FORGET 東北」
その名に込めた想い

話は少し戻りますが、東日本大震災から2週間ぐらいして、僕はあしなが育英会の方のレクチャーを受けるために神戸に行きました。同会が1999年に建てた震災遺児のための施設「神戸レインボーハウス」を訪ねた時、「柴さん、これから東北は大変ですよ。この施設は12年前にできましたが、私たちの心が完全に癒されたわけではありません。悲しみは一生続くでしょうね」とおっしゃいました。

阪神大震災の1年後、関東の人間は阪神のことをどれだけ覚えていたでしょう。忘れてしまつては、心はつながりません。養護施設を支援して35年、その経験からも支援は長く続けていくことが大切だと分かっています。福祉と同じで、始めたら続けないと意味が

緊急物資の送付から絵画展へ
状況に応じた支援のカタチ

2年前の3月11日、僕は全身に針を打っていました！全体の先生は「大丈夫だ」と言いましたが、全然、大丈夫じゃないですよ（笑）。その時ふと思ったのは、こういう（身動きの取れない）状況の人はいっぱいいるんだろうなということ。僕は25歳の時、八丈島東方沖地震を現地で経験しているのですが、今回は比較的冷静でいられたのですが、ちょっとトラウマになったところもあります。例えば、スポーツクラ

Interview

始めたら、続ける。 東北を忘れないための仕組みを！

いぶし銀のバイプレーヤーとして、映画やドラマでおなじみの俳優・柴 俊夫さん。柴さんは、その芸能生活と同じぐらい長く、ボランティアやチャリティー活動に取り組んできました。東日本大震災後は、復興支援プロジェクト「NEVER FORGET 東北」を俳優仲間と立ち上げ、全国各地でチャリティーイベントを開催。被災地の人々、特に子どもたちの心を癒す拠点づくりを支援する活動を続けています。

プのプールで泳いでいる時に「もし地震が起きたら……」等と考えるようになりました。

田野畑村（岩手県下閉伊郡）出身の友人に電話をかけたところ、「故郷がなくなった」「寒い」と、現地の状況を教えてくれました。そこで、できることをしようと思い知り合いに声をかけ、支援物資をまとめて発送しました。現地が混乱している震災直後はターゲットを絞り、個々のニーズに合わせて支援するのが効果的だと思います。しばらくすると、被災地の様子も分

かってきたので、次は僕が代表理事を務めている「こどものための柴基金」が支援している大分の養護施設に「東北の養護施設で支援すべきところを何箇所か教えてほしい」と連絡しました。このように被災地と関わっているうちに、あしなが育英会が動き出しました。東日本大震災の遺児は2157名いると言われていますが、実態を調査し、全員に200万円ずつ寄付金を配ったのはあしなが育英会です。

この活動に、どうしたら僕たちも映画できるのかと考えていた時、チャリ

Contents

特集 東日本大震災から2年 復興への取り組み

東日本大震災から2年が過ぎました。産業、雇用、教育、そして環境等の各分野において、国や地域の復興計画に基づいた取り組みが進められています。本号では特集として、復興支援プロジェクト「NEVER FORGET 東北」代表・柴 俊夫さんへのインタビュー、被災地で復興に立ち向かう現場の声、そして地球環境基金の特別助成を受けたNGO・NPOの環境保全活動を取り上げ、3年目を迎えた東北をめぐる状況をレポートします。

巻頭インタビュー	2
柴 俊夫さん 俳優、「NEVER FORGET 東北」プロジェクト 代表	
オピニオン	6
復興に自然・文化・歴史という視点を 佐々木 健さん 岩手県大槌町教育委員会事務局 生涯学習課長 兼 図書館長	
活動レポート	8
東日本大震災復興活動に携わるNGO・NPO	
Partner's Talk／助成団体レポート	10
特定非営利活動法人エコ・リーグ	
NGO・NPOサポートプログラム紹介	12
開催された研修講座から	
地球環境基金のサポーター	14
地球環境基金をご支援くださった方々	



後継樹写真：(財)日本緑化センター提供

【表紙写真】
大槌町「希望の灯り」と
奇跡の一本松の後継樹
阪神大震災の犠牲者を慰霊するガス灯「1.17希望の灯り」が分灯された大槌町の「希望の灯り」。市街地とひよこりひょうたん島の実称で知られる蓬萊島を望む高台の中央公民館前に設置されています。もうひとつは、陸前高田市の名勝「高田松原」で1本だけ残った「奇跡の一本松」の穂木をアカマツ台木に割接した後継樹。ともに復興に向けての「希望」の象徴です。

柴 俊夫さんが関わる ボランティア活動

■NEVER FORGET 東北

チャリティーイベント「俳優たち自らが撮影した絵画展」を開催し、デジタルカメラで撮影した写真を絵画調のキャンバス作品やポストカードにして寄付者に贈呈。集まったお金は、あしなが育英会によるケアハウス「東北レインボーハウス」建設に寄付。このイベントの運営にはアイリオ生命保険株式会社が協賛している。

- 札幌:2012年9月28～30日
丸井今井札幌本店 1,051,095円
- 東京:2012年10月25～28日
東武百貨店池袋店 1,260,299円
- 名古屋:2012年11月7～11日
松坂屋名古屋店 1,105,268円
- 大阪:2013年1月5～7日
阪急うめだ本店 1,871,076円
- 広島:2013年2月17～19日
福屋広島駅前店
- 福岡:2013年2月22～24日
博多阪急
- 仙台:2013年3月9～11日
藤崎一番町館

<http://www.nf-tohoku.com/>

寄付してくださった方に「あなたの優しい心が国を築きます」と話します。すると、その人は「私も一歩踏み出し、協力して良かった」と思う。枯れそうな木に水を与えるという行為が10回増えれば、その木は枯れずに済むかもしれないでしょう。

こういう考え方に対して、「柴、それは現実的じゃないだろう」「夢みたいな話」と言われることもあります。でも、僕は喜んでもらうことが嬉しいし、楽しいからやっている。ただね、時々こうも思うわけです。「神は、なぜ僕にもっとチカラをくれないのか。500億ドルの資産を持つビル・ゲイツみたいに！」ってね(笑)。



「こどものための柴基金」主催のチャリティーコンサートで田中 健さんと

生きていて良かった！ そう思えるリレーションシップを

残念ですが、東北の環境を元通りにすることは難しいでしょう。ただ「生きていて良かった！」と思えるようなリレーション（家族や友人関係、環境と社会の関係等）を、元に戻せればと思います。例えば、住まいを建てるなら、子や孫と一緒に住めるような余裕のある家にする。そのためのお金なら、出すべきでしょう。なぜなら、それはモノに対するお金じゃなくて、心に対するお金だからです。



多くの来場者を集めた阪急うめだ本店での絵画展(2013年1月)



「NEVER FORGET東北」を立ち上げた4人(柴 俊夫さん、松崎しげるさん、田中 健さん、西田敏行さん)。それぞれのポートレートをデジタル処理



絵画展の会場で、来場者にプロジェクトの趣旨や作品について説明する柴 俊夫さん

次のステップに進むには仕組みが必要です。

■こどものための柴基金

寄付金付きのオリジナル商品の販売、ならびにチャリティーでゴルフコンペやコンサート、オークション等を開催し、その収益金を寄付。主な支援先は、タイ・チェンマイのHIV母子感染児童養護施設「バーンロムサイ」、大分県別府市の児童養護施設「光の園」、日本・ベトナム脊椎外科研究会のほか、大船渡市の児童養護施設「大洋学園」、気仙沼市の児童養護施設「旭が丘学園」など。
<http://www.shiba-kodomo-kikin.com/>

柴 俊夫さんの プロフィール

1947年東京都生まれ。大学時代からモデル活動を始め、70年に「ゴールドアイ」で俳優デビュー。71年に「シルバー仮面」主演。その後も映画やドラマ、司会、旅番組等、幅広く活躍。ボランティア歴は35年と長く、「一般社団法人こどものための柴基金」をベースに、恵まれない子どもたちへのチャリティー活動を続けている。

そして大切なことは、人の存在を見捨てないこと。養護施設の子どもを見ていけば痛いほど分かることで、人間にとって自分の存在を無視されること程つらいことはありません。気にかけてくれる人がいる、それが心の拠り所になります。

これは「NEVER FORGET 東北」とは直接関係ないのですが、最初に話した田野畑村のその後。仮設住宅にお住まいの方から食器がほしいという要望があったので、僕と妻(女優・真野響子さん)らで100枚くらい送ろうということになりました。どうせなら思い出になるものをと有田焼の窯元にお願いしたところ、僕らが送ったお金で1200枚もの食器を届けてくださった。おばあちゃんたちは「これを見てみると幸せな気持ちになります」と喜んでくれました。その後、再度お



お金だけでなく、心も届ける。児童養護施設「光の園」でのクリスマス会の様子

日本中に支援のともし火を。

ないのです。被災地のことを思う。もちろん、思わないより思うほうが良いのですが、思うのなら「その思いを来年も覚えておいてね」と、僕は訴えています。それが「NEVER FORGET 東北」、絶対に忘れないで続けていこうということです。

成功を積み重ねて オールジャパンの支援体制を

東日本大震災復興支援プロジェクト「NEVER FORGET 東北」は、僕と松崎しげる、田中健、西田敏行の4名で立ち上げましたが、今では100人ぐらいの俳優や歌手、著名人、さらにはプロスポーツ選手も協力してくれるようになりました。このように支援の輪が広がったのも、続けてきたからだと思います。各地でチャリティーイベントを開催し、その都度、支援者にはこれだけ寄付が集まりましたと報告し、ホームページでも公開しています。1月5～7日には阪急うめだ本店で開催しました。阪急は最も大きなイベントスペースを無償で貸してくださり、他の百貨店も「良いことには支援しますよ」と言ってくれます。本店で成功すれば支店でもやろうということになって、日本各地にボン、ボン

と支援のともし火がとまり、それがオールジャパンとなっていきます。これがNEVER FORGETの手法です。物事を組織的に行うには、連携が大切ですね。例えば、百貨店と連携するなら、集客力を上げること。そのために僕たちも、絵画展だけでなく、ミニライブやトークショー等、新しい企画を採り入れています。

忘れない人を増やすこと それは環境も福祉も同じ

僕は俳優だけではなく、司会や旅番組等、仕事でいろいろな経験をさせてもらいました。世界61カ国に行き、自然の美しさ・残酷さ、人の優しさ・醜さを見てきました。様々な出会いが今の僕をつくってくれたのだと思います。チャリティーは、そんな人生への恩返し。マザー・テレサの言葉に「Give the world the best you've got anyway」という一節があります。自分の得た最良を与える……、お金を出さなくても、「何か協力できることがあったら」と思ってくれるだけでもいいんです。

僕らの活動は「忘れない人」をたくさんつくること。自然を守ろうという人を増やすのと、優しい心を持つ人を増やすのは同じです。僕はイベントで

復興に自然・文化・歴史という視点を、地域資源・イトヨから考える

オピニオン

復興に向けて様々な取り組みが進められている中、「復興には、地域に根ざした『自然・文化・歴史』という視点を忘れてはならない」と訴え続けている方々がいます。その中の一人が、岩手県大槌町教育委員会事務局生涯学習課長の佐々木健さんで、ご自身も東日本大震災の被災者です。津波で甚大な被害を受けた大槌町を訪ね、地域資源を活かした復興のあり方についてお話を伺いました。

震災前からの取り組み 豊かな地域資源を活かす

岩手県の沿岸域は、山が海に迫る数多くの湾からなるリアス式海岸で知られ、沖合は世界三大漁場の一つと言われる三陸沖。大槌と言えば、やはり漁業が思い浮かびます。

「おっしゃる通り、大槌は水産業を基幹産業として発展した町です。沿岸漁業が中心ですが、サケの孵化事業が1909（明治42）年に始まり、岩手県内では2番目に古い歴史があります。ただ、大槌の未来や地域づくりを語るのであれ



大槌川を遡上するサケ。堤防からその姿がはっきりと見える

ば、海だけではなく、その他の地域資源に注目しなければなりません。例えば、『湧水』や『イトヨ』等の自然、井上ひさしさんの『ひょっこりひょうたん島』のモデルになった蓬萊島等の文化、そして伊能忠敬と大槌の関わりといった歴史……、そうした地域資源を積極的に活かす必要があると考え、震災前から取り組んできました」

イトヨが教えてくれた 大槌の素晴らしさ

地域資源の中でも、イトヨという淡水魚に注目したのはなぜでしょう？

「大槌はリアス式海岸に面し、平地も狭いのですが、同様の他の地域とは異なり、地下水が豊富です。地下水は『湧水』や『自噴井』という形で我々の生活や自然環境に大きな恵みをもたらしてきました。その象徴となるのが、湧水を源とする源水川に棲む『イトヨ』なのです。経緯を少し詳しく説明すると、99年に総合研究大学院大学の研究会が大槌町で開催されました。秋篠宮殿下も研究者の一人

Opinion

として参加されましたが、ここで源水川のイトヨの存在が指摘され、それまで我々が『ただの小魚』と思っていたのが希少な種だと分かったのです。その後、イトヨ研究の第一人者である岐阜経済大学の森誠一教授の調査により、大槌のイトヨは「淡水型」であることが証明され、2001年には大槌で『淡水型イトヨシンポジウム』が開催されました（参加者約800名）。07年に、源水川の淡水型イトヨと生息地を町の天然記念物に指定し、その後、イトヨ観察会の開催や町民による生息地の環境保全活動へと発展してきました。我々にとってイトヨは自然環境のシンボルなのです」

震災後のイトヨ、そして課題

大槌の自然環境のシンボル・イトヨは、震災後、どうなったのでしょうか。

「いたんです、イトヨが。11年5月26日、秋篠宮ご夫妻が隣の山田町と大槌町にお見舞いに来られました。その2日前に関係者と一緒に源水川で見つけたのです。秋篠宮ご夫妻も、お帰りの際に、視察さ

西条市、山形県遊佐町の皆さんには支援物資やボランティア等、いち早く支援していただきました。イトヨでお世話になっている森先生も支援の会を立ち上げてくださり、日頃の取り組みで知り合った皆さんが、こうして支援してくださったことに本当に感謝しています」

インタビュー後、佐々木課長に町内を車で案内していただきました。蓬萊島を望むため赤浜地区に向かう途中、佐々木課長が「もうすぐ昼だね。ちよつと聴いてみようか」と車を止めると、防災用スピーカーからあのメロディーが流れてきました。ジャズピアノリストの小曽根真さん演奏による「ひょっこりひょうたん島」のテーマ曲です。「苦しいこともあるだろうさ、悲しいこともあるだろうさ、だけど僕らはくじけない。泣くのはいやだ。笑っちゃおう……」。そ

大槌町 概要



- 被災状況
- ・被災前の人口：16,058人（2011年2月28日現在）
- ・死 亡 者：800人
- ・行方不明者：455人
- ・家屋の全壊・半壊等：3,978棟（全家屋の59.6%）（出典：大槌町東日本大震災津波復興計画）
- * 2013年1月31日現在の人口13,024人、世帯数5,454戸

特集

東日本大震災から2年 復興への取り組み

■花言葉は「逆境に立ち向かう」

佐々木健さんが館長を務める大槌町立図書館の「利用者カード」には、ひょっこりひょうたん島に自生するキク科の多年草「ハマギク」の写真が使われています。偶然でしょうか、花言葉は「逆境に立ち向かう」です。



写真提供：佐々木健氏

■イトヨとは

トゲウオ科イトヨ属。北アメリカ、ヨーロッパ、日本の北中部を含む極東アジア等北半球に広く分布する冷水性の魚類。その分布はサケ科魚類とほぼ同様。1980年代後半から本州各地で、人間活動の影響によりイトヨが絶滅または激減した場所に、湧水を復活させる事業が実施されている。イトヨはその生活史から淡水型と遡河型に分けられる。淡水型は一生淡水域で過ごす、遡河型は春に海から河川へ遡上、繁殖後に親は死に、その稚魚は降海し成長する。源水川に生息するイトヨは、降海しない淡水型に分類されている。

※参考：森 誠「『郷土力を培う淡水魚の保全—大槌町のイトヨから—」（秋道智彌編『大槌の自然、水、人 未来へのメッセージ』に所収）



市街地の（湧水のある）水たまりで発見されたイトヨ

明。このように津波が生物の分布拡散に関与する事例の発見はきわめて稀です』とおっしゃっています。普通なら、遡河型イトヨが見つかったても大きな話題にはなりません、メディアで紹介されたのもイトヨに注目してきた大槌ならではのことでと思います。町の復興計画では、14・5メートルの防潮堤の建設が決まっていますが、町中にあふれる湧水と2タ イプのイトヨを、これとどう共存させていくかが今後の課題です」

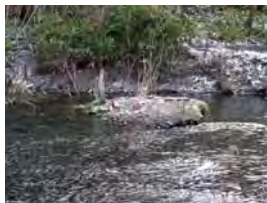
多くの支援に感謝 「蓬萊島」を復興のシンボルに

震災直後の支援の中にも湧水やイトヨに関連したものがありません。

「今回の震災では、実に多くの方々からご支援をいただきました。湧水つながりで言えば、東京都東久留米市、愛媛県



津波で流出した蓬萊島の大槌港灯台は昨年12月13日に再建、1年9カ月ぶりに再点灯された。灯台のデザインは町民の応募作品から選定したもの



淡水型イトヨが生息する源水川の
上流部。下流部にはサケの
孵化場がある



かつては150近く確認されていた自噴井。瓦礫を除去した市街地では、今なお湧き続ける自噴井が見られる



岩手県大槌町教育委員会事務局
生涯学習課長 兼 図書館長
佐々木 健さん

ささき・けん
大槌町生まれ。1982年大槌町役場入庁。生き物文化誌学会会員。共著に『大槌の自然、水、人』（東北出版企画）、『天恵と天災の文化誌～三陸大震災の現場から～』（東北出版企画）等がある。2012年「第1回東北みらい賞」受賞。

東日本大震災関連の
環境保全活動

自然と親しむ機会を失わないために、
自然体験フィールドの再生と活用事業

NPO法人 トチギ環境未来基地

●活動の内容

いわき市で自然体験フィールドの再生と、被害を受けた海岸のクロマツを活用したプランターづくりを仮設住宅で行っています。

●活動の成果と今後の予定

約300人のボランティアと活動。仮設住宅でのプランターづくりの会では、400個のプランターを制作。9回開催し、住民270人に参加いただきました。

<http://conservation-corps.jp/tochigi/>



プランターづくりの会による仮設住宅でのプランターづくり。
たくさんの方に参加いただいています(福島県いわき市)

環境を切り口とした
復興支援の方法を
開発し実行します。

活動レポート

東日本大震災
復興活動に携わるNGO・NPO

東日本大震災以来、多くの人たちが様々な形で復興活動に携わっています。本号では、
地球環境基金の特別助成を受け、東日本大震災の復興活動に取り組んでいるNGO・NPOを紹介します。

東日本大震災被災地における被災社叢復興と復活への取組み
NPO法人 社叢学会

●活動の内容

地域のシンボルになる等、景観的に重要な社叢の樹木現況調査と、被災3県の社叢や神社が果たした防災機能を聞くアンケート調査。

●活動の成果と今後の予定

現況把握によって再生に向けての樹種選定・育成方法等についての知見を得ました。今後、神社の希望も聞きつつ、提言等を行います。

<http://www.shasou.org/>



孤塚での樹勢調査(仙台市宮城野区荒浜)

被災された方々の努力で地域の
核としての社叢復興を目指します。

「東日本大震災 被災地復興から森林資源の活用を再考する」
映像による環境教育

NPO法人 環境テレビトラストジャパン

●活動の内容

宮城県沿岸地域で復興のため導入の試みが進むバイオマスエネルギーに焦点を当て森林資源とコミュニティを考える映像を制作、上映。

●活動の成果と今後の予定

完成作品「東北の森から明日を考える—木質バイオマスで広がるエネルギー自立の試み」は各地のシンポジウム等での上映の輪が広がっています。

<http://www.tvejapan.org/>



森林の下草を食べるため放牧される子牛たち(宮城県栗原市)

東北の森から明日を考えます。

被災地における環境保全型農業の推進によるコットンの
循環システム構築と環境教育ツール作成モデル事業

NPO法人 ザ・ピープル

●活動の内容

繊維になる作物、綿花を育てることで農地が放棄されることを食い止めようと、市内1.5haで在来種の茶綿を有機栽培しています。

●活動の成果と今後の予定

数多くの援農体験ボランティアの手を借りて、無事収穫まで漕ぎ着けました。次のステップでは、製品化を目指しています。

<http://www.iwaki-j.com/people/>



地域の農家との交流も生まれました(福島県いわき市遠野町の栽培地)

環境に配慮した農業で、本物を育てる。
ここから福島島の再生が始まります。

Action Report

東日本太平洋岸・市民による海岸植物群落調査と「海岸とのふれあい」調査
～復興事業における海岸の生物多様性保全・再生への提案

公益財団法人 日本自然保護協会

●活動の内容

市民調査による海岸植物群落の調査の実施、専門家による植物群落RDB調査の実施、地元の方の海岸への思いを聞くふれあい調査の実施。

●活動の成果と今後の予定

海岸植物群落の津波前後の変化を明らかにし、海岸への思いと合わせ、地域の自然に配慮した復興の提言をします。

<http://www.nacsj.or.jp/>



海岸植物群落の調査講習会にて(青森県八戸市)

砂浜がなくなっていない限り、
海岸植物は力強く生育するのです。

海と人との豊かなつながりを活かすために、
センターを再興します。

南三陸町自然環境活用センター再興プロジェクト

NPO法人 海の自然史研究所

●活動の内容

東日本大震災で壊滅した「活用センター」の発展的再起動を目指し、プログラム開発と実践、生物相調査等を行っています。

●活動の成果と今後の予定

フォーラムと体験イベントの開催、夏冬の生物相調査で基盤を作り、活動母体としての友の会を発足させて運営準備を進めています。

<http://www.marinelearning.org/>



子ども自然史ワークショップの様子(宮城県南三陸町)

東日本大震災被災地でのアスベスト対策の活動

NPO法人 東京労働安全衛生センター

●活動の内容

アスベスト含有建材の状況調査と気中濃度測定により、リスクを評価しました。その結果を元に、被災地の住民、行政機関の皆さんとの情報交換と対話により、対策を提言し実践しています。

●活動の成果と今後の予定

自治体との協力により、解体業の労働者向けの教育が実施され、具体的なアスベスト対策が採られました。他の自治体でも活動を進めながら、災害に対する通常時のアスベスト対策を目指します。

<http://www.toshc.org/dantai.html>



解体業者向けに開催された研修(宮城県石巻市)

大震災の被災地で
将来アスベストによる二次被害を
防ぐための活動を進めていきます。

東北・関東・関西を拠点に 大学生が展開する環境活動

■どんな人が活動しているのですか？
環境問題を解決したいと考える大学生や若手社会人が活動をしています。

コアメンバーは約50名で、東北・関東・関西の3つの事業部、特定の環境問題にテーマを絞って活動をする2つのプロジェクト、そしてこれらの事業部とプロジェクトを支える事務局から構成されています。また、年間30イベントを全国で実施し、延べ1000人以上の学生と若手社会人のネットワークを構築しています。

■主な活動内容とは？

全国の若者たちのネットワークづくりを目的に始まった団体です。先輩方に聞くと、昔は環境活動を行っていると周囲から奇異な目で見られ、孤立しがちだったとか。その中で、環境問題に取り組み活動をより活発にするため、大学や地域の枠を超えた孤軍奮闘する仲間たちのネットワークが必要だったのです。このネットワークで、全国自転車キャラバンや、国を超えたインターナショナルギャザリング等の活動を生み出してきました。現在では、CCCや紛争鉱物の問題を扱うR・R・R等の特定テーマを扱う活動も行っています。

大学・キャンパスのエコ度を 計るエコ大学ランキング

■特定テーマを扱うCCCとは、どのような活動ですか？

CCC (Campus Climate Challenge)、これは1990年代にアメリカの学生が始めた気候変動に関する活動ですが、私たちはこれを「エコ大学ランキング」として、大学の地球温暖化対策や環境教育支援等を調査し、その結果を公開しています。

全国に約750の大学があります。そこにアンケートを送り、回答をもとに環境対策の取組み状況を評価、順位付けを行います。4年間やってきましたが、毎回回答してくれる大学もあり、あれば、まったく無回答の大学もあり、調査は延べ300大学にとどまっています。ただ、今後も続けていく予定なので、回答数も増えていくと思います。

■発表後、反響はいかがですか？

今回は都市部の大学が上位にランキングされたせいか、ほとんどの全国紙で紹介されました。また、高校生新聞や教育芸術新聞(日本私立大学協会発行)等でも取り上げられ、反響は確実に大きくなっています。

■最終的な目標は？

大学の担当者間での認知度は着実に

18回目を迎えた

「環境」就職・進路相談会

■これは、どのような相談会ですか？

毎年、200名以上の学生を集め「環境」に関わる仕事をテーマに行っています。「環境」に関わる仕事をしている社会人を約30名お招きし、学生が社会人と直接話のできる場を設けています。企業説明会やその他キャリアフォーラムと異なる点は、「環境」という切り口で仕事を紹介していること、また、個別相談会なので少人数で



第4回エコ大学ランキング表彰式。
左よりフェリス女学院大学、日本工業大学、東京大学の皆さん

- 第4回エコ大学ランキング
- 1位 日本工業大学 (宮代キャンパス)
 - 2位 フェリス女学院大学 (緑園キャンパス)
 - 3位 東京大学
 - 4位 千葉大学
 - 5位 成蹊大学
 - 6位 三重大
 - 7位 岩手大学
 - 8位 郡山女子大学 同短期大学
 - 9位 九州工業大学
 - 10位 武蔵野大学 (武蔵野キャンパス)

【対象】 781大学・キャンパス 【ランキング参加数】 147大学・キャンパス
【調査期間】 2012年7、8月
【評価項目】 CO2排出量、エネルギー効率、学生との協働など4セクション122項目



エコプロダクツ2012に出展した
エコリーグのブース



エコプロダクツ2012会場内で開催された
「環境」就職・進路相談会

P a r t n e r ' s T a l k

DATA BOX

- 名称 特定非営利活動法人エコ・リーグ
- 住所 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂2-19 銀鈴会館507
- URL <http://el.eco-2000.net/>
- 目的 環境活動を行う若者のネットワークを構築し、環境問題の解決を目指すための「人材育成事業」と「社会への発信事業」を行う。

●活動実績

- 1994年 エコ・リーグ設立
- 1995年 「環境」就職・進路相談会スタート
- 1999年 日韓環境ギャザリング開始
- 2002年 「環境」就職・進路相談会をエコプロダクツにて開催
- 2003年 全国大学生環境活動コンテスト(ECOCON)スタート
- 2009年 「エコ大学ランキング」スタート、専従有給職員雇用開始
- 2010年 CBD COP10で「がけつぷちの生物多様性キャンペーン」を実施
- 2011年 環境・経済・社会の切り口から持続可能な社会を考えるイベント「Beyond」を開催
- 2012年 NPO法人格を取得

●主な活動内容

- ・ネットワークの活性化:ギャザリング、エコ情報交流会、エコ・リーグカフェ
- ・社会への発信:全国学生環境活動コンテスト(共催事業)等
- ・人材育成:「環境」就職・進路相談会、EcoWorkナビ、スキルアップセミナー



毎年開催されているギャザリング。
写真は関東事業部の地域ギャザリング



エコ・リーグが共催する全国学生環境活動
コンテスト

特定非営利活動法人エコ・リーグ

未来をつくるために つながる若者たち

地球サミットの翌々年、1994年に設立された大学生を中心に活動する環境団体「エコ・リーグ」。先輩から環境に対する想いを受け継ぎ、異なる世代とも交流しながら、エコ大学ランキングや「環境」就職・進路相談会等、若者ならではのスタイルでエコを発信しています。



お話を伺った皆さん。右から、三澤あいさん(事務局長)、上地成就さん(Campus Climate Challenge実行委員会委員長/東工大大学院)、小竹舞さん(Campus Climate Challenge実行委員会スタッフ/慶応大学)、北祐樹さん(全国大学生環境活動コンテスト学生スタッフ副代表/東京大学)

*Resource & 3R Revolution:レアメタルをはじめとする資源活用に関する社会的問題に取り組む青年主導のプロジェクト。2010年にスタート。

助成団体 レポート

問題意識を持つ私たち学生に 期待してほしい

■地球環境基金の助成金について、

話ができるため、良い話にとどまらず現場の生の声を直接聞けることの2点です。また、毎年カウンセラーとして参加されるのは、企業や官公庁、NPO等の幅広い分野で活躍されている方で、実はエコ・リーグOB・OGや、そのつながりのある方々です。このネットワークこそ、エコ・リーグの強みでもあります。

どう思われますか？
とても助かっています。学生が中心の団体は、企業からは支援しにくい面があるのでしよう。もし基金の助成金があったら、ここまではやれなかったかもしれません。

■最後に今後の抱負を。

学生を中心とした団体ですが、世代を超えて様々な人たちとつながりながら、地道に環境問題に取り組んでいきたいと考えています。期待してください。

穴も掘れるキャリアウーマンになりたい!

(研修に参加した大学生の言葉から)

8月25日から9月13日にかけて、マレーシアで現地研修が実施されました。本会はこの研修に参加した10名による報告会です。沖縄の高校教諭・神村智子さんは、現地研修で環境保全活動を実際に体験し、それを生徒たちに伝えたいと参加。報告会ではどのように授業で活かしているか具体的に報告。聴講した関係者の間からは、研修成果が早々と活かされていることに賞賛の声が上がりました。また、大学生で海外研修に参加した小林芽依さんは、将来は環境分野で「穴の掘れる(汗も流す)キャリアウーマンを目指す」と挨拶し、ぜひ頑張っ

てほしいという言葉かけられていました。

■海外派遣研修(マレーシア)事後報告会



研修者全員が発表する事後報告会

2012年10月27日(土) 13:00~17:00
コンファレンススクエア エムプラス(東京・丸の内)
企画運営:(社)日本マレーシア協会
参加者:約30名
事後報告会概要
●研修内容の報告(新井卓治日本マレーシア協会専務理事)
●研修内容の報告と質疑応答(各自15分間)
●感想と評価(富岡丈朗 日本大学国際関係学部准教授他)
●参加者のフリーディスカッション

*詳しい内容はホームページにアップされている「海外派遣研修報告書」をご覧ください。過去のものも参照できます。



現地研修で得たこと、感じたことを熱く語る研修生



生物多様性分科会でコメント述べる久保田 学アドバイザー

単なる報告でなく皆が議論できる問題提起を!

(アドバイザーの言葉から)

地球環境基金から3年間の一般助成を受けている団体が、2年目までの活動状況と3年目に向けての目標と抱負を発表する報告会。講演会と分科会の2部構成で、メインとなるのはもちろん分科会。参加した42団体が6分野に分かれ、それぞれが活動内容を報告。各分科会では環境保全活動に詳しいアドバイザーが各報告を聞いた後、3年目の活動に向けた具体的なアドバイスをを行いました。また、報告を傍聴する他団体や一般参加者からも積極的な質問や提案があり、単なる活動報告会ではなく活動ノウハウそのものを互いに伝え合う場になる等、熱気の高まった2日間でした。

■地球環境基金助成団体活動報告会

2012年10月13日(土) 13:00~18:40 / 14日(日) 9:00~11:35
サンシャインシティ コンファレンスルーム(東京・池袋)
参加者:約150名
助成団体報告会概要
●講演会「リオ+20からの提言〜持続可能な社会へ向けて〜」
廣野良吉成蹊大学名誉教授
●活動事例発表

- ①(特非)エコ・リーグ「東アジアの青年環境活動支援を目的とした日本の青年人材育成事業」
 - ②(特非)オオタカ保護基金「サシバと共生する里山づくり」
 - ③(特非)気候ネットワーク「地球温暖化防止のための国際合意と国内対策促進のリンクプロジェクト」
- 分科会(生物多様性保全、国際環境協力、循環型社会形成、総合環境教育、地球温暖化防止、総合環境保全活動の6分野で実施)



30名近くが参加した国際環境協力の分科会

参加者同士が話し合う。これが協働の第一歩です。

(ファシリテーターの言葉から)

社会の関心が高い「エネルギー」問題に関する講座。初日は5つの講演とワークショップ、2日目は3つの講演とワークショップで構成された内容の濃い講座。こうした講座は、ともすれば聞くだけで精一杯になりがちですが、熟練されたファシリテーター(坂本文武立教大学准教授)により、講演内容と参加者の感想が有機的に整理され、一体感の持てる講座となりました。例えば、参加者同士が小グループに分かれ、聞いたばかりのことをそれぞれの立場から話し合い振り返る時間が用意される等、参加者も能動的に関われる工夫がされていました。

■環境保全戦略講座(重点分野・環境とエネルギー)



講演終了後の少人数によるグループワーク

持続可能なエネルギー社会の構築に向けた
NGO・NPOの戦略／協働／ネットワークの構築・強化
2012年11月10日(土) 13:00~19:00 / 11日(日) 10:30~18:00
ハロー一会議室(東京・水道橋)
企画運営:(特非)「環境・持続社会」研究センター(JACSES)
参加者:約30名
講師陣:土居健太郎(環境省地球環境局低炭素社会推進室長)
山下紀明(環境エネルギー政策研究所主任研究員)
足立治郎(JACSES事務局長)
山田太雲(オックスファムジャパン・アドボカシーマネージャー)
田辺有輝(JACSESプログラムコーディネーター)
中口毅博(環境自治体会議環境政策研究所所長)
山口勝洋(サステナジー株式会社代表取締役)
坂本文武(立教大学准教授)



研修講座をリードするファシリテーターの坂本文武氏



「気候変動をめぐる国際交渉の概要と最新動向」と題して講演する高村ゆかり氏

皆さんの積極的な活躍に期待したい。

(高村氏講演の結びの言葉から)

国際交渉の現場で活躍している専門家を招いての実践的な講座。当初、定員20名で募集しましたが、参加希望者が30名を超えたため急遽定員を増やして開催しました。参加者のほとんどは関東圏からでしたが、関西からも4名、中にはインドネシアから参加された方もいました。初日は高村ゆかり氏(名古屋大学大学院教授)、大木浩氏(元COP3議長・元環境大臣)等4氏による講演と報告、2日目は2氏による報告の後、ワークショップ「COP18に向けて、提言を作ってみよう」が行われ、国際会議におけるNGOの役割や国際合意の実現に貢献する方法を実践的に学びました。

■環境保全戦略講座(地球温暖化防止分野)

地球温暖化交渉で活躍する人材養成・ネットワークづくり
2012年10月27日(土) 10:30~17:00 / 28日(日) 10:00~17:00
日本キリスト教会館(東京・西新橋田)
企画運営:(特非)気候ネットワーク
参加者:30名
講師陣:高村ゆかり(名古屋大学大学院教授)
平田仁子(気候ネットワーク・CAN International理事)
大木 浩(元COP3議長・元環境大臣)
山岸尚之(WWFジャパン 気候変動プログラムリーダー)
小島敏郎(青山学院大学教授・元環境省地球環境審議官)
日比野敏陽(京都新聞記者)



講演者に鋭い質問をする参加者

地球環境基金では、平成25年度も引き続き研修講座を実施する予定です。講師陣は環境保全活動の様々な分野で活躍されている方で、それぞれが聞き逃せない充実した内容となっています。平成25年度の研修講座受申込は、本年度は「海外派遣研修」は5月連休明けから、また「他の講座」は9月頃に地球環境基金のホームページにて告知する予定です。ご期待ください。

■ご寄付いただいた皆さまに

- お名前をホームページやニュースレター等でご紹介します。
- 一定額以上のご寄付をいただいた方には感謝状を贈呈します。

〈 感謝状贈呈要件 〉

ちきゅう 「ほし」が2回以上のご寄付

ほし 法人は50万円以上または
累積100万円、
個人は20万円以上または
累積50万円以上のご寄付

そら 法人は累積50万円、
個人は累積20万円以上のご寄付

みどり 法人は累積10万円、
個人は累積5万円以上のご寄付

■「地球環境基金便り34号」
読者アンケートにご協力
ください

アンケートは、このページのアンケートはがき、およびホームページ「地球環境基金の情報館」のアンケートページ (<http://www.erca.go.jp/jfge/info/publicity/tayori/form.html>) において受け付けております。皆様のご意見・ご要望をお聞かせください。

Present

アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で20名様に、地球環境基金オリジナル・エコランチョートバッグをプレゼント(応募締切:平成25年8月末)。当選者の発表は、地球環境基金のホームページ上で行う予定です。



SUPPORTERS

平成24年7月から12月末日現在までに472件、総額**401万5,204円**のご支援をいただきました。ありがとうございました。



地球環境基金のサポーター

地球環境基金をご支援くださった方々

地球環境基金に、平成24年7月から12月末までに「ご寄付・ご支援くださった方々は下記のリストのとおりです。個人や企業・団体としてご協力いただいた方はもちろん、様々なイベントを通じて募金活動にご参加・ご協力いただいた大勢の方々に深く御礼申し上げます。

国・地方公共団体

浅口市役所 生活環境部 環境課
いちき串木野市役所 生活環境課
田舎館村役場 厚生課
岩倉市役所 環境保全課
恵那市役所 水道環境部 環境課
大津市役所 環境部 環境政策課
大木町役場 環境課
大牟田市役所
奥尻町役場
尾鷲市役所 環境課
尾鷲市役所 環境衛生課
勝浦市役所 生活環境課
葛城市役所 新庄庁舎 市民生活部 環境課
上富田町役場 住民生活課
川棚町役場 住民福祉課
河内長野市役所 環境経済部 環境政策室 環境保全課
京丹後市 農林水産環境部 環境バイオマス推進課
草津市役所 環境課
九十九里町役場 まちづくり課 環境係
郡上市役所 高鷲振興事務所 振興課
国東市役所 武蔵総合支所
甲府市役所 環境部 環境総室 環境保全課
小平市役所 環境部 環境保全委員会
小山市役所 環境部 環境保全課
佐賀市 大和支所
下川町役場 税務住民課
上越市役所
白浜町役場
瀬戸内市役所 長船支所
宗谷郡猿払村役場
高砂市役所 生活環境部 環境政策課
地球環境パートナーシッププラザ
千葉市役所 環境保全課



その他

エコジマーケット実行委員会
沖縄リサイクル運動市民の会
公益財団法人国際環境技術移転センター
財団法人国際協力推進協会
DPI・NGO 国連クラシックライフ協会
財団法人埼玉県生態系保護協会
佐倉市立井野小学校
特定非営利活動法人シックハウスを考える会
NPO法人スプリングボードユニティ21
社団法人全国燃料協会
東京農業大学 生活協同組合
日本原子力開発機構 人形峠環境技術センター
一般社団法人日本生花通信配達協会
日本大学高等学校・中学校
特定非営利活動法人登別自然活動支援組織
モモンガくらぶ
パノニック アフラインス労働組合 奈良地区支部
新風クラブ
リサイクル自動車ボツポ
(五十音順・敬称略)

*このリストは、地球環境基金への振込通知書等に記載された名称・氏名に基づき作成しておりますので、個人および企業・団体等の区別につきましては必ずしも正確ではない場合があります。また、紙面の都合によりご寄付ご支援くださったすべての方々のお名前を掲載できない場合もございますのでご了承ください。

企業

アーク引越センター株式会社
株式会社アクアフィナンシャルグループ
株式会社朝日フィナンシャルグループ
イーパートナーズ株式会社
株式会社ECナビ
岩見沢ガス株式会社
有限会社インタリンク
株式会社植木組 東京支店
株式会社内田洋行 九州支店
株式会社エースランドリー
株式会社オークローンマーケティング
株式会社オーデオテクニカ
株式会社大室明治也
株式会社カワサキ電通
京都中央信用金庫
キョト株式会社
有限会社倉田商店

車屋 ボルテックス
株式会社クレディセゾン
株式会社ジェー・イー・エル西日本 デイリーサービスネット
株式会社ジエフ・エル・エルカード
株式会社ジエフ・エル・エルカード
昭和三井リアルティ株式会社
株式会社志志建築事務所
SUI INTERNATIONAL 株式会社
株式会社ソーラー・ネットワーク
有限会社第一環境
武部建設株式会社
株式会社橋本フィナンシャルグループ
株式会社ちよびりッヂ
電源開発株式会社 磯子火力発電所
株式会社トーカー
東光電機工業株式会社
日本リライアンス株式会社
ネットオフ株式会社
能勢電鉄株式会社



個人

天野徳美
新井きよ美
石川 巖
伊藤一秀
井上雅晴
内川敏朗
海老澤加代子
岡田淳子
岡野義幸
オギノシタロウ
奥井美由紀
甲斐文士
神野政祐
草薙智紀
小西みゆき
小林正平
佐藤弘美
佐藤元基
佐藤優子
幸本明美
篠原 泰
嶋元 誠
清水光明
菅野ひさ子
杉本光史
関上賢治
先崎チイ子
高木千賀子
高増泰子
竹内成子
田中健三
谷口 滋
塚本正樹

槌屋岳洋
中野友博
中村 亨
西村典男
西久保裕彦
沼野伸生
ネット・オフ株式会社
お客様
野崎 顕
橋本直子
波田野統之
花房秀行
原田広巳
平木倫子
福井光彦
福田昌代
藤田佳久
本田 聡
本間シズエ
牧 美穂
真崎朋子
松木優子
丸山淳一
湊 亮策
山口 浩
吉田裕史
吉田 実
吉田 寧

アライヨリコ
アイジマヒロユキ
イコウガノリコ
イシイタカヨ
イシイタカヨ
イシカワヒロシ
イシザカシュンイチ
イシヤマシユウコ
イシヤマヒロコ
イトウツク
イナバトシハル
イノウエヨシジロウ
ウキヤノリコ
ウダガワタケアキ
エグチトモコ
エンドウウイコ
オイカワミキオ
オオクボタケイチ
オオタニススム
オオツカヒデオ
オオツカカスミ
オオツカユウコ
カモシタシゲヨシ
カワシマサチコ
キタムラウウチ
キトウタツオ
コガテルカス
コクブカスミ
コジマサツグ
コバヤシヤエコ
コヤマタダシ
コンドウヨシアキ
サイトウアキ

サカモトアツシ
サカモトカツヒロ
ササキトシロウ
サトウトミコ
シノザキノリコ
シムラカヨコ
シンカワマサトシ
スズキヒデオ
スズキマリミ
スミヨシフミトシ
セキネシノブ
ソメヤトモユキ
ソメヤヨウコ
ダイドウシズコ
タカイズミカツマサ
タカシマヨシジ
タカハシヨコ
タカハシヒデキ
タカハシマサノスケ
タカハシメタロウ
タナカカスエ
タニヒサコ
チバユエウジ
ツチダモトユキ
テラサワスミオ
ナガオヨシコ
ナガクラヨシノリ
ナガサワミサコ
ナゴヤスズコ
ネモトスミ
ネモトサミチ
ネモトミズス
ハヤシジュンコ
ハヤシマサエ

ハラヤマチイコ
ハルハラヤスヒコ
ヒグラシヤチヨ
ヒタフミオ
ヒラノナオコ
ヒラバシシエコ
フジタヒロユキ
フジモトタツミ
ホンジヨウキンイチ
マズダシコ
マツサワセツコ
マツハシアツコ
マツマルコウセイ
ミウラカスコ
ミカハラチエコ
ヤナギノリオ
ヤマガタジュンジ
ヤマガタトモコ
ヤマベサチコ
ヤマモトハルエ
ヤマモトマリコ
ユアセイイチ
ユウメイアキコ
ヨシタキヨウコ
ヨシハラヒノリ
ヨネタエミ
ワカバヤシカズエ
ワタナベコウキチ
ワタナベフミオ
ワタナベユミ

■ご寄付口座のご案内 「地球環境基金」へのご寄付は、下記口座より受け付けております。お振込みの手数料は無料です。

銀行名／支店名	口座番号	口座名称
ゆうちょ銀行	00190-0-664214	地球環境基金
新生銀行／本店	普通預金 0789699	独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金
三井住友銀行／東京公務部	普通預金 3013615	
三菱東京UFJ 銀行／本店	普通預金 7637448	
みずほコーポレート銀行／本店	普通預金 2413416	
りそな銀行／赤坂支店	普通預金 1023850	

同一金融機関でのお振込みについては、取り扱い窓口でお申し出ください。

- ①独立行政法人環境再生保全機構は、特定公益増進法人に指定されており、税制上の優遇措置を受けることができます。
- ②ゆうちょ銀行以外の銀行からお振込みいただく場合には、領収書が発行できません。領収書の発行を希望される方は、お手数ですが、地球環境基金部基金管理課(TEL:044-520-9606)へご連絡ください。

※この他にも、クレジットカードを利用した寄付や、楽天銀行を利用した寄付が可能です。詳しくはウェブサイトをご覧ください。
地球環境基金の情報館 <http://www.erca.go.jp/jfge/>

■感謝状贈呈者の活動
感謝状 ちきゅう 株式会社サイバーガジェット

ゲーム周辺機器、デジタル関連機器の輸入・企画・開発・販売をしている株式会社サイバーガジェットは、平成14年より10年以上継続的に地球環境基金へご寄付いただいています。平成24年9月13日に感謝状「ちきゅう」第1号を贈呈させていただきました。



■感謝状 感謝状 みどり SUI INTERNATIONAL株式会社

SUI INTERNATIONAL株式会社は、東京都内を中心とした店舗で、若者向けのお洒落な古着やオリジナルブランドgrnを扱っています。オンラインショップ「SUI酔SUI」では、購入者が商品の感想(レビュー)を投稿すると、1件につき100円の募金としてカウントされ、ご寄付いただいています。

